

2016年リオデジャネイロオリンピック4×100mリレーの銀メダリストで、100mでは日本人初の9秒台をマークした桐生祥秀選手が発起人となり進めている「Sprint50 Challenge」が、2月25日(土)・26日(日)、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅において開催されました。

本町と株式会社JTBが地方創生に関する連携協定を締結したことを記念し、同社のブランドスローガン「感動のそばに、いつも。」と本町が掲げる「陸上競技を核に成長するまち」というコンセプトのもと、大崎町陸上競技の聖地創り実行委員会の主催で初めて開催され、全国の小学生が約100名集まり熱戦が繰り広げられました。

1日目は、屋外陸上競技場において予選がおこなわれ、小学女子1年の部からスタートしました。本町の小学生27名も力いっぱい走っていました。決勝は2日目に、室内陸上競技場において、低学年の部、中学年の部、田上JTB、桐生JTBの4レースおこなわれ、町内からは、中学年の部に勝田翔太さん(大崎小4年)と下伊倉心美さん(菱田小3年)、桐生JTBに児島健斗さん(菱田小6年)と中尾夢愛さん(大崎小5年)が進出しました。田上JTBは、高学年のタイム上位者と鹿児島ユナイテッドFCの初代主将で現在は応援リーダーの元Jリーガー田上裕さんが一緒に走り、桐生JTBは、全体のタイム上位者男女

—— 桐生選手と小学生がガチンコ勝負

Sprint50 Challenge in 大崎町 supported by JTB

スプリント50 チャレンジ イン 大崎町



Sprint50とは

スプリンター(短距離走者)桐生祥秀選手が発起人となり、誰もがチャレンジしたことがある50m走を基本とし、子どもから大人まで、競技や種目などの隔たりをなくし、全ての人がチャレンジできる競技。50mという共通の舞台で人々や社会を繋ぎ、チャレンジすることの大切さ、人々の生活に潤いや刺激を与える新たなスプリント種目です。

